

# タテ線譜メソッド経過発表-2

—導入・五線譜への移行・レッスンの流れ—

阿方 俊（昭和音楽大学） 友永和恵（平成音楽大学）

司会：小沢真弓（NPO いちかわシャンテ代表） 書記：秋谷万里子（和幸楽器和幸音楽院 文責）

## はじめに

午後1時から開催されたラウンドテーブル「タテ線譜メソッドを様々な視点から考える」においては、話題提供者のみならず、会場に集まった様々なフィールドで活動を行っている方々、多様な研究領域の参加者によって、全員の顔が見える状態で、活発な意見交換が行われ、各発表内容も豊富であった。その為、まだまだ時間が欲しい状態だったので、この時間の発表者である阿方氏並びに友永氏の提案も有り、この時間の一部を利用して、参加者合意のもと「タテ線譜メソッドの発展型」として続行することになった。

## 発表概要

### 1 「タテ線譜メソッド」導入から5年

昭和音楽大学・生涯学習講座受講者 坂井康二氏（厚木市いきいきサポーター）による  
タテ線楽譜講座受講から広がった活動報告  
「介護施設での電子キーボードを使った取り組み」  
「104歳の音楽（リズム）反応」

### 2 阿方 俊氏 友永和恵氏

「タテ線譜メソッドの導入ポイント」  
こども学科ピアノ初心者ソルフェージュ授業での取り組み  
・五線譜によるピアノ導入は理論（楽譜の理解）から始まる。に対して  
・タテ線譜メソッドによるピアノ導入は音楽（既知曲を歌う事）で始まる。  
このメソッドでは、次に指番号を確認⇒鍵盤外の所で歌いながら指でなぞる⇒タテ線譜の下の所を鍵盤のドに合わせて弾く。

### 3 原岡 和生氏（洗足学園音楽大学）

「タテ線楽譜と邦楽器の記譜法との類似点」  
「タテ線メソッドと日本の音楽の共通点について」  
「ひとりで奏でる春の海」五線譜とタテの楽譜（譜）を並べ演奏と共に YouTube 公開の反響を説明

「タテ線譜メソッドから五線楽譜への移行への可能性」

坂井氏は「タテ線譜メソッド」を使用したシニア向け講座の受講者である。

「阿方先生の講座を受講して アレンジが出来るようになり、コードを見てメロディー譜に音や伴奏を入

れられる様になった」

電子ピアノのパーカッション音など、音色を替えられる特性を活かし楽器持参で介護施設を訪問。

音楽を用いて施設利用者のQOL（生活の質）の向上を目標とした活動を続けている。

活動成果として、普段は会話も成立しなかった状態の104歳の女性利用者が、曲に合わせて喜んでリズム反応を示し驚かされた。

### 「タテ線譜メソッドの導入ポイント」

こども学科ピアノ初心者ソルフェージュ授業での取り組みについて友永氏発表。

この発表はラウンドテーブルでの会場質問「タテ線譜メソッドの欠点、問題点とは？」への回答も兼ねていた。

平成音楽大学で、音楽経験の浅い学生に向けてのソルフェージュ教育の一環としての鍵盤導入の際に、タテ線譜を使用した授業を行っている。

但し、タテ線譜メソッドは導入素材であり、目標ではない、目標とするのは難しい。これが問題である。

まとめとして「どこを目指していくか？」によって、どのようにタテ線譜が発展をみせるかが見えてくるのではないかと。音楽理論の次元だけでなく“弾きたい・知りたい・達成感”が基にあって実行し、欠点・問題点から発展の可能性を目指したいと思う」と述べた。

### 「タテ線楽譜と邦楽器の記譜法との類似点」

原岡氏は、琴曲「春の海」を取り上げ、五線譜と縦の楽譜を左右に並べて、琴の演奏と共に、小節毎に同期して演奏箇所を示すマーカーを両楽譜に付けた、五線譜と琴譜のシンクロ視聴「ひとりで奏でる春の海」を紹介した。

その結果から、「五線譜に慣れている人が、縦の楽譜に興味をもった時、あるいは琴で演奏したいと思った時には、この手法は有効かもしれない。」と述べ、

「又、タテ線譜から五線譜に移るとき この手法は役立つのではないかと。」との提言でまとめた。

## 所 感

タテ線譜メソッド経過発表として多くの試みが、ラウンドテーブル→研究発表③→研究発表⑥を通して発表された。

色々な分野に広がる研究に、新たなタテ線譜メソッドの世界が期待されるものであった。